

4. 観察や実験を通して、科学する目(芽)が身につく、家族のさすなも強まること。  
・4年間の実験を通し、ナメクジは夜行性ということに気づいた。しかし、かれがに夜はいないのに朝になると必ずもどることを確認できた。  
・チコウナメクジはすぐに見つけることができる。反面フタスジナメクジは条件(湿度、天気、コンクリートの場所)がそろわないと見つけることが困難だった。  
・学習能力はナメクジの種類(チコウ、フタスジ)差があるというよりも、個体差で関係する傾向が見られることが分かった。  
・ナメクジの苦手な臭いはナメクジの種類によって共通のものもあるが、まったくちがう苦手な臭いがあることも分かった。  
・外で、ナメクジはハーブの近くでも生きている。しかしハーブ(ミント、ローズマリー、バジル)の葉をちぎると臭いが増え、ナメクジが避けることが分かった。  
・3年生の時ナメクジはこうぼの臭いが好きと知った。今回ミソとしょうゆの臭いも好きだと予想したが必ずしも全てのナメクジが好む訳ではなかった。  
・4年間実験や観察を通して、毎日調べたり記録したりすることはとても大変だった。しかし、それをまとめたり、応用紙に書いたりすることが作品ができていくとやりがいや達成感が増し、やっぱりよかったなあと感じました。ぜひこの4年間の成果をこれから生かしていきたいと思います。